

石門周辺崩落石材回収工事

令和4年(2022)7月から石門周辺の崩落石材回収工事を行いました。石門は東竹の丸にある平櫓周辺から小天守入口と小天守北側を結ぶ石垣の下部に作られたトンネル状の通路です。最初に重要文化財建造物平櫓西側の崩落した石材の回収を行い、その後石門がある本丸北側の崩落した石材の回収を行いました。



石材回収前(令和4年7月13日)



石材回収の様子(令和4年7月29日)



石材回収後(令和4年8月10日)

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約512,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡(全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡(全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など

※前震での被害を含む



熊本城ミュージアム わくわく座

熊本城の見どころをスタッフがライブ解説!
『熊本城VR(バーチャルリアリティ)』

わくわく座の大好評コンテンツ「熊本城VR」。江戸時代と震災前の熊本城の姿を大迫力の映像で再現し、石垣の迫力や城の役割を臨場感たっぷりに体感できます。このVRを使った、スタッフのライブ解説は必見! 熊本城特別見学通路の見どころや、復旧の最新情報を紹介します。お城見学とあわせてぜひご覧ください。
期日：毎日上映
料金：入館料 大人300円、子ども(小・中学生)100円



熊本市中心区二の丸1-1-1
096-288-5600

開館時間など詳細はホームページまで



お得 共通入園券がオススメです!
2館共通入園券(熊本城・わくわく座)
.....大人850円、子ども(小・中学生)300円
3館共通入園券(熊本城・わくわく座・熊本博物館)
.....大人1,100円、子ども(小・中学生)400円

熊本城天守閣企画展示 「明治天皇 来熊記念年 熊本における明治天皇の御幸」

会期：11月1日(火)～令和5年(2023年)4月第3週
会場：熊本城天守閣(大天守)1階 ※熊本城の入園料が必要です
今年には明治5年(1872)の西国巡幸から150周年、明治35年(1902)の陸軍特別大演習から120周年の節目にあたります。これを記念して、熊本にこの明治天皇の足跡や、御幸が与えた変化について、小島行在所の資料や熊本城の調査成果などを展示します。



天皇から下賜された短刀

熊本県立美術館(本館)

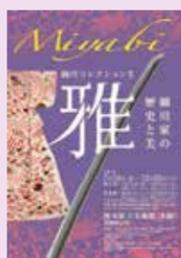
細川コレクション 雅 - 細川家の歴史と美 - 第II部
[10月1日(土)～12月25日(日)]

細川家に伝わる藩主が用いた甲冑やゆかりの武器・武具、当主夫人が着用した華やかな衣裳や、さまざまな技法で装飾された調度品を展示します。また、武家にとって必須の教養であった能楽に用いる能面・能道具や、優雅な嗜みとして親しまれた香にまつわる道具を紹介します。

◆その他下半期の展覧会

- 美術館コレクション 仏と神と侍と [10月7日(金)～12月25日(日)]
- 美術館コレクション “表情”でみる美術 [1月7日(土)～3月19日(日)]
- 細川コレクション 最後の熊本藩主夫人・峯君 [1月12日(木)～3月19日(日)]
- 特別展 ジブリパークとジブリ展 [1月20日(金)～3月26日(日)]

熊本市中心区二の丸2番 096-352-2111 開館時間など詳細はホームページまで



熊本博物館 熊本博物館 KUMAMOTO CITY MUSEUM

熊本博物館創立70周年 / 熊本市政令指定都市移行10周年記念 秋季企画展
「あつまれ!地域の宝もの - 熊本市域にのこる“文化財”のミリオクワ -」

会期：10月15日(土)～11月20日(日)

現在、熊本市域には240件を超える指定文化財があります。本展では、その中から古文書や歴史資料、美術工芸品を中心にご紹介します。本展をきっかけに、身近な地域にどんな文化財があるか考えてみませんか。
※感染症拡大状況により、本展の開催を中止する場合があります。



熊本市中心区古京町3-2 096-324-3500
開館時間など詳細はホームページまで



熊本城 ～復興に向けて～

令和4年度秋冬号



熊本城見学エリア



新型コロナウイルス感染症の影響により公開を変更する場合がございます。最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

※施設の臨時休館や開催を変更する場合がございます。詳細はお出かけ前にご確認ください。

宇土櫓・続櫓下空堀発掘調査

宇土櫓・続櫓下石垣の復旧に際して、宇土櫓・続櫓下空堀本来の形状を把握するために、令和4年(2022)5月から6月に発掘調査を行いました。

調査の結果、空堀内には宇土櫓西側石垣構築時及び修理工事に伴う堆積土、昭和28年(1953)西日本水害の被災処理に伴う堆積土、瓦や漆喰を多く含み、複数の時期の宇土櫓・続櫓解体修理等に伴う堆積土などが確認できました。また、今回の調査では石垣の一番下に積む礎石である根石を検出

しました。土層の観察から、根石は地山を掘り込んで据えられていることがわかりました。石垣が構築された当初は根石のみが埋まっていたが、時間の経過に伴い空堀内に土が堆積し、現在の高さまで埋没してしまったことが考えられます。現在約21mとされている石垣が、本来は約25mの高さを誇っていたこともわかりました。

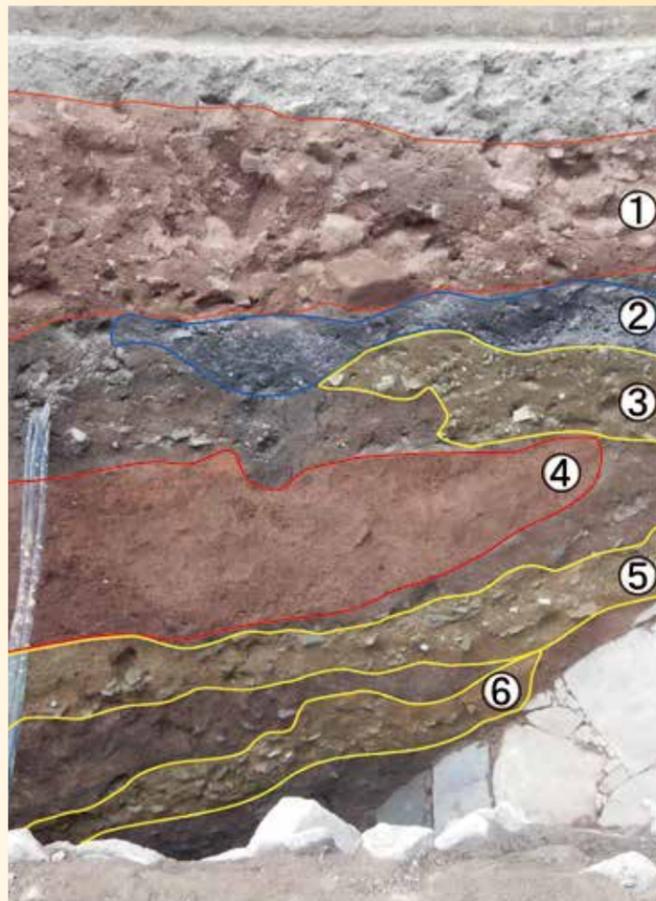
宇土櫓は今年度秋頃から解体に向けた工事が始まり、令和5年(2023)頃から約10年程度素屋根に覆われます。東・南面の外壁は透過性の高いシートとするため、天守閣等から工事の様子を見ることができます。



発掘調査地点(令和4年6月23日)



発掘作業状況(令和4年5月31日)



土層堆積状況(令和4年6月16日)
宇土櫓西側石垣構築時④及び修理工事①に伴う堆積土(赤)
昭和28年西日本水害の被災処理に伴う堆積土(青)②
宇土櫓・続櫓解体修理等に伴う堆積土(黄)③:明治22年以降、⑤・⑥:江戸時代

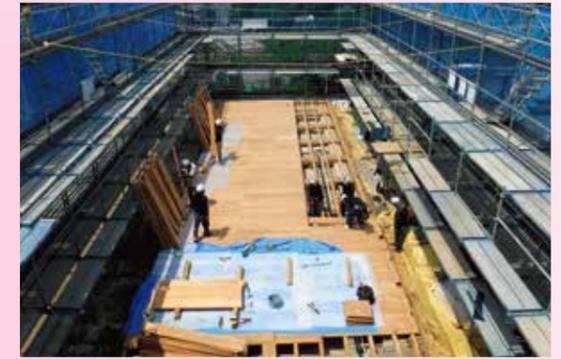


根石検出状況(赤矢印)(令和4年6月17日)

復元建造物の解体保存工事(戌亥櫓・馬具櫓)

「一本石垣」の状態でも崩壊を免れた戌亥櫓と、石垣が崩落し建物が変形した馬具櫓の解体保存工事を令和3年(2021)11月から実施しています。馬具櫓は令和4年(2022)2月から解体に着手し、7月に完了しました。

解体保存工事では、まず石垣と櫓の倒壊防止と作業上の安全のために鉄骨構台を設置しました。解体は建物の上部の屋根瓦から取り掛かり、土壁・屋根・小屋組み材、軸となる木部材、基礎の順に丁寧に解体していきました。部材は復旧時に再利用するため、部材保管庫に格納しています。



馬具櫓の解体保存工事状況(令和4年4月22日)



屋根瓦解体後の馬具櫓(令和4年4月5日)



「一本石垣」で支えられた戌亥櫓



鉄骨構台設置後の戌亥櫓(令和4年5月17日)

国指定重要文化財監物櫓復旧工事

令和3年(2021)9月に石垣の復旧工事が完了した監物櫓は、同年10月から令和5年(2023)12月にかけて櫓の復旧工事を実施しています。令和4年(2022)5月には部材の補修作業や基礎工事、軸となる木部材の建て方作業が完了し、同年8月までに屋根の下地となる野地板取付作業などを行いました。現在は瓦葺き作業が始まっており、その後土壁や漆喰を壁に塗る左官工事へと移っていきます。

瓦葺き作業に先立ち、瓦の刻印の拓本をとりました。拓本とは、瓦に刻まれた年号や製作者の名前、記号などの情報を墨で紙に写し取る作業です。この調査は、熊本城に葺かれている瓦の生産に関することや時代による形の変化など研究の進展に役立ちます。



建て方作業(令和4年5月10日)



土居葺き完了(令和4年7月12日)



瓦葺き作業(令和4年8月22日)



拓本の様子(令和4年8月10日)